

お盆の季節がやってきました。

今年のお盆は私たちにとって、特別なものとなることは言うまでもありません。

三月十一日に発生した大地震、これに伴って起きた大津波、さらには福島第一原発放射能漏れによる被害等、この東日本大震災によつて多くの尊い命が犠牲になつてしましました。犠牲者の方々、ご遺族の皆さんにとりまして、初めて迎えるお盆です。

震災直後より、世界中から様々な職種の人々や、数え切れないボランティアの方々が被災地に赴き活動しています。直接被災地に行くことはなくとも、たくさんの人々が「自分にできること」に励んでいます。そして、多くの僧侶もまた、犠牲者の方々の供養のために被災地へと向かいました。僧侶と人々がともに掌を合わせ祈りを捧げている光景は、誰しもの目に焼き付いていることだと思います。

亡くなられた方にとっては思わず災害に遭つての突然の死です。亡き人々とご遺族には、なぐさめもいかなる言葉も、悲しみや苦しみを取り除くことはできません。十分な供養より他にはありません。それも唯一、「法華経」に眼なのです。

私たちのお唱えする法華経は、「拔苦与樂（苦しみから救い、福樂を与える）」の教えであり、生きとし生けるもの全てを成仏へと導く功德のある教えです。今年のお盆は、ご先祖さまへの追善供養とともに、大震災により亡くなられた方々を思い、一心に法華経をそしてお題目を唱え供養に励んで参りましょう。

この「国難」とも言うべき未曾有の難を乗り越えるためには、大きな力が必要です。復旧・復興のための物質的な支援と共に、亡き人の菩提を祈り供養をしなければならないという想いは、国民の誰もが感じたことでしよう。

今こそ国を挙げての支援、そして国を挙げての異体同心の供養の時です。

